

PAYGとCloud Access比較

CCSPとは？

Red Hatは多数のパブリッククラウド事業者と協力して、クラウド環境でRed Hat製品へのサポートを提供できる体制を整えています。そのためのプログラムが Red Hat Certified Cloud and Service Provider Program (CCSP) です。

AWSやAzure, GCPなどはCCSP事業者と呼ばれ、Red Hat Enterprise Linux などのRed Hat製品をもととした仮想マシンイメージを作成し、CCSP事業者のクラウドサービスの一部として提供することができます。

CCSP事業者は自身のクラウドサービスのサポート提供に加え、顧客へ提供したRed Hat製品のサポート窓口業務も行います。

RHUI, PAYGとは？

CCSP事業者がRed Hat Enterprise Linuxを顧客へ提供する場合に、更新パッケージを配布する仕組みは2通りあります。Red Hat Satelliteと、Red Hat Update Infrastructure(RHUI)です。

- **Red Hat Satellite**はパッケージを配布するために使える他、集中管理のための各種機能も提供しています。数千から数万ノード用です。
- **RHUI**はパッケージを配布する機能だけを提供します。仮想マシンを管理する能力はありません。数万～数百万ノードへもスケール可能です。

AWS, Azure, GCPはいずれもRHUIのみを利用しています。これらの仕組みでサービスの一環として提供されるRHELはPay as you go(**PAYG**)と呼ばれます。

RHUIで配信するコンテンツはCCSP事業者の選択により変わります。

Cloud Accessとは？

顧客がRed Hatと契約してサブスクリプションを持っている場合、これをレッドハットにより認定された一部のCCSP事業者のクラウド環境へ持ち込むことが可能です。そのための仕組みがCloud Accessです。

RHELの例では、CCSP事業者はIaaS環境までを提供します。RHELについての問い合わせ先はRed Hatのままです。

製品がCloud Accessに対応していることと、CCSP事業者が該当製品のCloud Accessに対応していることの双方が必要です。

※OEM製品はCloud Accessに対応しません。

Gold Imageとは？

Cloud Accessによりサブスクリプションをクラウド環境へ持ち込む場合、基本的にはクラウド事業者が用意した仮想マシンイメージは利用できず、ユーザが仮想マシンイメージを自作します。

AWSおよびAzureでは、仮想マシンイメージ自作の手間を省くため、Cloud Access用にGold Imageとよばれる仮想マシンイメージがあらかじめ用意されています。

※RHEL 7.8以降および8.0以降では、Image Builderによりクラウド環境用の仮想マシンイメージ作成が容易になりました。

RHUIとCloud Access比較

	RHUI	Cloud Access
契約先	CCSP事業者	Red Hat
サポート窓口	CCSP事業者	Red Hat
利用可能製品	CCSP事業者により異なる	CCSP事業者により異なる
仮想マシンImage	Red Hatが認定。 CCSP事業者が作成・提供。	顧客が作成したものを持ち込み。 AWSとAzureのみGold Images提供(※)。
RHN, Satellite利用	不可	可能
Insights利用	可能	可能

※ 2020年6月現在。将来変わる可能性があります。

RHUIとCloud Access比較(AWS)

	RHUI	Cloud Access
契約先	CCSP事業者	Red Hat
サポート窓口	CCSP事業者	Red Hat
利用可能製品	EUS, ELS, HA, RSアドオンなし(※)	EUS, ELS, HA, RSアドオンあり
仮想マシンImage	Red Hatが認定。 CCSP事業者が作成・提供。	顧客が作成したものを持ち込み。Gold Images提供。
RHN, Satellite利用	不可	可能
Insights利用	可能	可能

※ 2020年6月現在。将来変わる可能性があります。

注意点: CCSP提供RHELとCloud Access間の変換

CCSP事業者が提供するRHELと、Cloud AccessのRHELを相互に変換することは認められていません。

「CCSPのRHELを利用している、もしくは構築作業をはじめたが途中から Cloud Accessに切替えたい」とお問い合わせをいただくケースがありますが、そのような場合はゼロからの再構築をしていただくようお願いしております。

(2020年10月追記) Azureでは、Azure Hybrid Benefitにより相互に変換が可能になります。

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/azure/virtual-machines/linux/azure-hybrid-benefit-linux>

<https://access.redhat.com/articles/5419341>

どうするのがいいの？

統一シナリオ

- オンプレミスとパブリッククラウドが混在した環境でお客様が**統一した管理**を行う場合
→ Cloud Accessで統一
- **全て単一パブリッククラウド上**にのみ構築する場合
→ CCSPまたはCloud Accessに統一
(利用したい製品やサポート窓口により選択)

混在シナリオ

- **コストを重視**する場合
→ 固定的・永続的に利用を続ける部分はCloud Access
→ 負荷変動にあわせてスケールアウト・スケールインさせたい部分はCCSP